

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100010		
法人名	社会福祉法人南山会		
事業所名	グループホーム憩いの里富津		
所在地	千葉県富津市青木214番地1		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/">http://kaigo.chibakenshakyō.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市富士見1-2-1アクア木更津8F		
訪問調査日	平成23年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは日中玄関を施錠せず、入居者が自由に出入り出来るようになっています。玄関を開放することにより徘徊が減少し、それぞれの入居者が日々穏やかに過ごされています。日課の散歩では地域の方々や挨拶や会話を交わしたり、地域の行事に参加しています。又、当ホームの行事に地元ボランティアや近隣の保育園児を招き地域の方々との交流を積極的に図っています。御家族様と入居者様の関係が途切れることの無いよう、月1回の利用料の支払いはホーム窓口へ直接お越しいただき、面会の機会を設けています。協力医は24時間対応となっており、安心できる医療体制が築かれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は全般に明るくゆとりのある空間で構成されており、対面キッチン、全居室トイレ・洗面完備、オール電化などの特長があります。利用者の精神的安定のためにも、日中の施錠しない取り組みが行われており職員への教育がされています。取り組まれたこととしては、火災対策としてスプリンクラーが設置され整備されました。マニュアル類(プライバシー・身体拘束・事故・災害予防)が作成され整備されました。期待したいこととしては昨年同様運営推進会議の開催回数を増し、業務の改善を図ってもらいたい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内や玄関などに掲示し、会議等で再確認を行い、理念を共有して実践につなげている。	月1回の全体会議で、理念について確認し合うようにするとともに、実践につなげるよう努力をしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩では地域の方々と挨拶や会話を交わしている。又、地元自治会の行事や近隣の保育園の行事に参加したり、当ホームの行事に地元ボランティアや近隣の保育園児を招き交流を図っている。	地域自治会の行事や、近くの保育園の七夕祭りなど、利用者とともに積極的に参加したり、クリスマスには保育園児を事業所に招いている。又、地元自治会の役員が、法人の評議員になっており、地域との交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	突然の施設見学にも対応し、介護方法についての相談や問い合わせに応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスや状況等についての報告を行っている。 会議での意見を全職員に周知し、話し合いを行い、サービスの向上に努めている。	運営状況やサービスの実際等を報告し、意見をもらうようにしている。	評価結果を会議に報告し、評価後の取り組み等について意見を聞いてもらうことを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは密に連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは密に連絡を取り、状況を伝えたり話し合いをすることで協力関係を築いている。	利用者の課題解決のために、その都度市の担当者に相談を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放し、自由にテラスへの出入りが出来るようになっている。 身体拘束については全ての職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議やケース検討会議、申し送り、日常会話の中で、身体拘束について点検確認している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて学んでおり、職員の意識向上を図り、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見制度については研修や会議で学んでいる。 成年後見制度については事例があり支援を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な点や疑問な点は、理解・納得して頂けるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部に苦情相談窓口を設けており、契約書に記載するとともに説明を行っている。 又、外部苦情窓口についても契約書に記載し、案内を行っている。	利用料金を直接事業所に持参して貰い、その時に利用者の要望などを聞き、運営の参考にしている。	利用者や家族が意見や要望などを外部者に表せる機会を設ける事を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談や月例会議の際に、職員の意見や提案を聞き、多くの意見を取り入れている。	全体会議の前に文書で意見や提案などを提出して貰い、言い難い部分の把握に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や能力によって給与水準を定めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に参加したり、定期的に内部での研修会を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互訪問があり、ネットワークづくりは行っているが、勉強会には行っていない。他事業所とは交流する機会を持ち、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず御本人・御家族同行の上で見学に来て頂き面談を行っている。要望等を傾聴し、安心・納得して頂けるよう説明や話し合いをさせて頂き、信頼関係が築けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ず御本人・御家族同行の上で見学に来て頂き面談を行っている。要望等を傾聴し、安心・納得して頂けるよう説明や話し合いをさせて頂き、信頼関係が築けるように努めている。又、少しでも疑問等があれば、いつでも気軽に問い合わせして下さい。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族のお話を傾聴し話し合いを行うことで、その時に必要としている支援を見極めている。場合によって、他のサービス利用についても説明している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の手伝いや庭の草取りなど、個々の状態に応じて出来ることを行って頂いている。自分の役割として意識することで、職員と本人が支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えて行けるよう、家族とは小さなことでも常に連絡を取るようになっている。必要であれば面会に来て頂き、直接本人とお話して頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人との面会や外出を容認し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	地域で暮らす友人や知人と食事会や忘年会などに出かけたりする等、継続的交流が途切れないよう支援している。 又昔から利用している美容師に事業所に来てもらうなど、利用者の生活習慣を尊重している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立することが無いよう食席等配慮している。又、日課の散歩時に車椅子を押して頂いたり、居室を自由に行き来して一緒にテレビを視聴されるなど、利用者同士が関わり合い支え合えるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も経過を伺い、必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動や会話の中から希望や意向の把握に努め、その人らしく暮らして行けるよう検討している。	日々の係わりの中で声をかけ、言葉や表情等から、その真意を推し測ったり、本人の意向を把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を伺い、又、日常の会話を通して把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状態や一日の過ごし方を把握し、その日その時の状態によって過ごして頂いている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、課題とケアのあり方について話し合いを行っている。その意見に基づき介護計画を作成している。	毎月の全体会議やケース検討会議で、職員全員で課題等について話し合い、そこで意見を反映させようとしている。	事業所外の関係者の意見を聞く機会を設ける事を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、個別記録へ詳細に記入することで情報を共有している。必要に応じて都度話し合いを行い、実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、その時々本人や家族の状況やニーズに対して柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の参加したり、行事の際に地域ボランティアを招き、地域の方の協力を得ながら喜びや楽しみを感じ取ることが出来るよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2回/月の往診があり、問題があれば医師・家族・事業所相談の上、専門医を受診して頂き、適切な医療が受けられるよう支援している。協力医は24時間対応となっており、急変時は都度、指示を仰いだり往診を行っている。	協力医による診察、訪問看護による健康管理がなされており、精神科・歯科・皮膚科・眼科などの他科受診は必要に応じて適切に受診できるように支援されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師による1回/月の訪問看護があり、情報や気づきを伝え相談している。情報や気づきは医師にも報告し、適切な指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が出来るよう、病院関係者や家族と連絡を取り合って情報交換を行い、退院後に備えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、本人・家族・主治医と十分に話し合い方針を共有している。今のところ、地域関係者とのチームでの支援は行っていない。	入所時など早い段階での重度化や終末期のあり方についての話し合いは行われていないが、重度化した場合は本人・家族・主治医・施設職員で話し合い、事業所で出来ることを説明し、方針を共有して支援されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講しており、応急手当や心肺蘇生の方法を習得している。又、緊急時の対応については定例会議にて確認・周知を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により消防避難訓練を実施し、全職員が避難方法を身につけている。地域の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。	災害に際しての備蓄用品の備えをし、役割分担や連絡体制を整備し災害に対応できるように努めている。スプリンクラーが設置され火災対策が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権や人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を行っている。	一人ひとりの生い立ちや、その時の状態などを配慮して誇りやプライバシーを損ねない声掛けをしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表すことが出来るよう働きかけ、納得して暮らしていけるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や日課の体操など時間に決まりはあるが、それ以外は本人のペースで過ごして頂いている。 買物や散歩など、出来る範囲で一人ひとりの希望に添えるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら着替えの準備をするなど、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう毎食メニューの掲示を行っている。 食事の準備や片付け・盛付けや配膳など、個々の能力によって出来る事・得意な事を職員と一緒にやっている。	食事前のメニューの朗読で関心や楽しさを感じてもらい、また嚥下体操を行いスムーズに食事が出来るようにしてもらうなどの配慮がされている。 対面キッチンを利用者が片付け、盛り付け、お手伝いなどがしやすい造りとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態により食事形態を変えたり、好みの飲み物を提供している。 又、苦手な食べ物は本人の栄養面に配慮した上で本人の好みに合わせ代替品を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力や口腔状態に応じて、介助および声掛け・見守りにて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でのトイレ誘導を行い、排泄の失敗やオムツの使用を減らすよう心掛けている。 又、状態に応じてポータブルトイレを設置している。	排泄パターンを把握し一人ひとりに沿った支援がされている。全居室にトイレ・洗面が設置されており、個々に合ったペースでの排泄やプライバシーの心配をせず排泄できる居室空間となっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には繊維の多い食品や乳製品を取り入れている。 又、日課の体操以外にも運動を行ったり、ペットボトルに入れたお茶を居室に置き何時でも水分が摂れるようにと個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決まっているが、それに合わせて自分で着替えを準備したり、順番を確認し楽しみにされている。入浴の方法については個々に合わせた支援を行っている。	週3回の入浴が出来る仕組みをとっているが、一人ひとりのその日の状態によっては適時時間の変更を行い安心して、気持ちよく入浴が出来る支援がされている。 季節に合わせて菖蒲湯、ゆず湯などを行い楽しめる支援がされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて、自由に休息して頂いている。個々によっては時間を見て離床の声掛けを行い、夜間良眠出来るよう支援している。 夜は就寝時間を決めず、本人の希望に沿って就寝して頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて情報を共有し理解している。 症状の変化等あった場合は、速やかに医師へ連絡し適切な指示を仰ぐとともに、職員へ申し送りを行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や草取り・洗濯物畳みやおしぼり配りなど、個々の力を活かした役割を担うことで張り合いのある日々を過ごして頂けるよう支援している。又、季節の行事や誕生会を行うことで楽しみや喜びを感じて頂いたり、散歩やドライブ等で気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添えるよう、希望があれば買物や散歩、ドライブなど戸外に出かける事が出来るよう支援に努めている。 本人の希望を把握し、家族の協力を得て外出できるよう支援を行っている。	天候の良い日はほぼ毎日施設周辺の散歩が行われている。通り道では犬・猫・野の花を鑑賞をしたり、幼稚園児と声を交わしたりして楽しく行われている。公園、買い物、お花見などのドライブも行われ、外出支援がされている。	更に、一人ひとりの希望や楽しみを活かせる工夫や企画をされると良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はお金を所持されており、希望に合わせて買物や床屋などに行き自身で支払いを行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を受け継いだり、職員が家族へ電話を掛け取り次いでいる。 手紙のやり取りは本人の要望に合わせて支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が利用者にとって不快なものにならないよう、音や光、温度等配慮を行っている。 四季折々の草花や果物、置き物を飾り、季節を感じて頂けるよう工夫をしている。	一人ひとりの希望や状態を配慮しながら、音・光・温度などが調整され、季節感を取り入れた植物、果物飾りつけなど工夫し取り入れている。1、2階のユニットには対面キッチンが設置され食事時のさまざまな音や匂いなどが生活観を感じさせる空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが置かれ、ゆっくりとテレビ視聴や団欒が出来るようになっている。 又、玄関・ホール・テラス・廊下にはベンチや椅子を配置し、それぞれが好みの場所で過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んで頂き、写真や生花など好みの物を飾られ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。 本人の要望は家族へ相談し、少しでも居心地良く過ごせるよう配慮している。	一人ひとりそれぞれ、馴染みの物や使い慣れた、位牌、人形、テーブル、ソファ、テレビ、ラジオなど自由に持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであり、各居室にはトイレと洗面台を設置、トイレや廊下・浴室等に手摺りが設置されている。各居室にトイレがあることでトイレに迷うこともなく、安全で自立した生活が送れる環境になっている。		